

ボルダリング競技用リザルトサービスのためのワークシート

2014/09/03 版

これは競技クライミングのボルダリング種目で成績処理を行うためのワークシートです。

IFSC 規則の 2010 年版に準拠した国際大会での処理をおこなうためのものです。対象となる競技会は、2 もしくは 3 ラウンド、最初のラウンドで全選手が同一のボルダラーを登るもので、最大選手数は 100 名、最大クォータは準決勝が 50 名、決勝は 20 名、タイブレークボルダラーは 10 名です。

IFSC 規則ではボルダリングは 3 ラウンド制ですが、2 ラウンドもローカルではあり得ると考え、2 ラウンドにも対応しています。また、各ラウンドの課題数も IFSC ルールでは固定化された部分がありますが、これも従来通り指定できるようにしてあります。

マクロについては、競技順の生成、データの存在しない行/列の表示/非表示、データの消去がおこなえます。メニュー「アドイン」からマクロを実行できます。

対応する Excel は 2007 以降で、2010 以降推奨（Excel2003 以前は非対応）です。基本的には 2007 で大丈夫ですが、一部条件付き書式で問題が生じる可能性があります。

なお、入力されているデータは実際にあった大会名のものでダミーですので、ご承知置き下さい。

構成

全部で 10 のシートからなっています。

“初期設定”は競技会の主催者、名称、会場など最終的なリザルトのヘッダ部分のデータ、そしてラウンド数、各ラウンドのプロBLEM数と最終的な定員を入力します。また、このシート右側の“用語定義”で、ヘッダなどに表示される単語（予選、準決勝、ID など）の表示を変更できます。

各ラウンド用のワークシートは、合計 7 つです。タイブレークボルダラー用を除いて各ラウンド 2 つずつあります。各ラウンド名（“予選”、“準決勝”、“決勝”）だけのものと、それに“成績”のついたものとです。

その他に“最終成績”があります。これは最終的な成績を出力するためのものです。

フォントは、適宜変更してください。列幅、行の高さ、不要な行、列の非表示についても同様に、印刷の見栄えに応じて変更してください。

また、言うまでもないことですが、セルや列、行を削除（データの削除ではなく、行や列、セルそのものの削除）すると参照関係が崩れ、参照エラーとなることがあります。不要と思われる行、列は削除するのではなく、非表示にしてください。

使用法

基本データの入力

まず“初期設定”に必要な事項を入力します。

なお“初期設定”シート表示時には、このシート上だけでなく選手名簿、各ラウンドの記録をマクロで全て消去して初期化することができます。他のシート上では、そのシートのデータのみ削除です。

競技会の名称や主催者関係は、どこにどのデータが入らなければならないということはありません。ヘッダに表示される順に並んでいるので、日程以外は“主催者1”などと言った項目名にこだわらず適宜、必要に応じて入力してください。

なお、日程、カテゴリー、ラウンド数、課題数は、リスト入力やで入力します。

また、各ラウンドの進出者数については、ここでも指定できますが、実際に次ラウンドの競技順を作製するときに指定/変更ができます。

また課題名も指定可能です。課題番号が連番になっていない場合に指定します。何も指定しなければ、単純な連番になります。

次に選手名簿を入力します。選手名簿はどのような基準であれ、何らかの順番に入力する必要も、事前にソーティングする必要もありません。

3ラウンドの場合

“準決勝”とその“成績”のシートは、設定が2ラウンドの場合は表示されません。参加者数が多く3ラウンドで実施する場合、“初期設定”の“ラウンド数”に3を指定します。すると“準決勝”とその“成績”のシートが表示されるようになります。

予選の競技順

マクロ化されているので、“選手名簿”が表示されている状態で、メニューをクリックするのみです。

マクロを使わない場合の手順を一応書いておきます。

“選手名簿”でF9キーを押して再計算をかけると、k4からk103のセル（J列は非表示になっています）に新しい競技順が生成されます。これをコピーし、A4～A103に**数値のみ**ペーストします。A4～A103に手動で入力することも可能です。

なおH列の「競技順指標」は、IFSCの世界ランキングのような基準に基づいて競技順を作成するためのものです。ここに数値が入っていると、その数値の昇順に早い競技順が割り当てられます。

またA4～A103に競技順が入力された後、ソートをかける必要はありません。ここに競技順が入力されると自動的に、“予選”に、競技順に並んで選手名などの各項目が表示されます。またG5（右側のセルと連結されている）の表示内容は、メニューのアドイン→ボルダー処理で各ラウンドの「暫定競技順」、「競技順」、「入力画面」に切り替えられます。「競技順」と「暫定競技順」では6、7行目の表のヘッダが簡略化され、「記録」「順位」などの文字が表示されなくなります。この状態で、競技順リストを出力し、その後「入力画面」に切り替えて入力作業をおこないます。また、データを入力してある状態でも、「競技順」に切り替えると、入力されているデータは非表示（文字色が白）になりますが、データが消えるわけではありません。入力開始後に競技順リストを出力する場合を考えて、このような仕様にしてあります。

以降のラウンド（予選から準決勝、準決勝から決勝）でも、競技順生成の作業を、先立つラウンドの“成績”のシートでおこないますが、基本的な手順は同じです。準決勝の競技順は“予選成績”上で再計算後、A08～A0107をAK8～AK107に**数値のみ**貼り付けます。決勝の場合は、“準決勝成績”上で再計算後、AK8～AK57をAH8～AH57に**数値のみ**貼り付けます。なおこれらのコピー元の列はいずれもデフォルトでは非表示になっています。

数値のみを貼り付けるセルに競技順の計算式を直接入れてしまうと、再計算の都度（と言うことは、何らかの入力がある都度）、同着の選手の競技順が変わってしまうことになります。必ず数値のみを貼り付けてください。

競技順リスト及び記録の入力

“予選”、“準決勝”、“決勝”、“タイブレークボルダー”の各シートは、競技順リストと成績入力シートを兼ねています。各シートの5行目の表示は、フォームのボタンで「競技順」と「入力画面」に切り替えられます。「競技順」にすると、リストの右側の表題が消え、列間の縦罫線も表示されなくなります。この状態で印刷出力した後、「入力画面」に切り替えて入力作業を行います。

シートの右の方に、ラウンドの競技開始予定時刻の入力欄があります。ここに入力すると、個々の選手の競技開始予定時刻が表示されます（各ラウンドの競技時間は“初期設定”シートで指定します）。

各選手の記録は、各課題の完登、ボーナスポイントそれぞれのアテンプト数を入力します。完登できなかった、あるいはボーナスポイントに達しなかった場合には、該当欄に0（ゼロ）を入力します。ゼロを入力した場合、画面上の表示は“×”になります。

タイブレークボルダーの記録=“到達点”欄は左右に分かれています。左側が高度（手数）の数値、右側がサフィックス=+/-です。紙上の記録でノーマルにNを記入される方がいますが、ここではノーマルの場合は何も入力しないでください。なおサフィックスは数字に続けて左側のセルに入力して確定すれば、マクロで自動的に左側セルに数値、右側セルにサフィックスが入力されます。

完登は「top」です。大文字でも小文字でも（1バイト文字でも、2バイト文字でも）大丈夫です。

記録が入力されると自動的に順位が表示されます。準決勝と決勝では、そのラウンドだけの順位とカウントバック適用後の順位の両方が表示されます。

成績と次のラウンドの競技順

各ラウンドの成績は“予選成績”、“準決勝成績”、“決勝成績”の各シートに、成績順で表示されます。最終的な成績は“最終成績”です。いずれもソートする必要はありません。と言うより、ソートしないでください。

マクロを使用して次ラウンドの競技順を作成する場合は、まずダイアログが表示されますので、上位ラウンドへの進出者（定員）を指定してください（マクロを使わない場合は、“初期設定”の次ラウンドの定員（進出者数）を入力した上で、操作する必要があります）。

なお、タイブレークボルダーの結果は、結局“最終成績”になりますので、“タイブレークボルダー成績”というシートはありません。また、タイブレークボルダーが無い場合は、“Final_Result”を使用する必要はなく、そのまま“最終成績”に行ってください。

“最終成績”のタイブレークボルダーの欄は、タイブレークボルダーが実施されない場合は、欄そのものが空白となり枠線も表示されません。

各シートとも、マクロで不要な行を隠すことができます。各シートでメニューから“不要な行を隠す”を選ぶと、不要な行（シートによっては不要な列も）が表示されなくなります。通常は、オーダー作成の段階で、関係するシートの不要な行、列はマクロで非表示になっています。

成績と競技順のアップロード

各ラウンドの競技順と成績をExcel上から直接ウェブサイトへアップロードする機能です。「ローカル側ファイルパス」で指定したフォルダーにHTMLファイルを作成し、それを「サーバー側ファイルパス」で指定したディレクトリにFTPでアップロードします。なおこの機能は、Windowsでのみ使用可能です。

使用法は“初期設定”シートの、「サーバー側ファイルパス」、「ローカル側ファイルパス」（それぞれ絶対パス）、FTPサーバーの「サーバー名」、「ユーザー名」、「パスワード」を使用しているサーバーに合わせて設定します。

「サーバー側ファイルパス」、「ローカル側ファイルパス」で指定したパスが存在しない場合、警告ダイアログが出て、必要なディレクトリ、フォルダを自動生成します（パス指定が根本的に誤っていない限り）。

「フッター」は生成される HTML の一番下に表示するコピーライトなどです。

アップロードファイル名は、大会名を識別するためのもので、任意です。

CSS は競技順用とリザルト用を別々に指定できます。ファイル名は「競技順用 CSS ファイル名」、「リザルト用 CSS ファイル名」で任意のものを指定できます。相対パスをつけて指定することもできますので、競技順や成績の HTML ファイルとは別のディレクトリ、フォルダーにおくことも可能です。

内容は添付のサンプルを見て、適宜修正してください。

なお CSS ファイルは手動でアップロードする必要があります。

利用は、それぞれのシート表示時のメニューから「〇〇競技順アップロード」、「〇〇成績アップロード」を選択するのみです。

注意

このシートの使用/再配布は自由ですが、使用した結果について、作者は一切の責任を負いません。自己責任において使用してください。ご試用の上、バグなどお気づきの点は下記までお知らせください。

日本フリークライミング協会 競技委員会 山本和幸 (tricam7@gmail.com)

2014/09/03 版の変更点

- ・項目として選手の生年を追加し、全体のレイアウトを修正、言語変更機能を削除し、日本語のみの対応とする。
- ・競技順とリザルトを FTP サーバーに直接アップロードする機能の追加。

2011/05/09 版の変更点

・課題数の変更に伴う表示範囲の設定が誤っていたのを修正しました。2009/6/10 版でのレイアウトの大幅な変更の際に変更を忘れていたものです。

2011/03/22 版の変更点

・データの無い行の表示/非表示の切り替えをトグルではなく独立させました。競技順に名前のある選手がキャンセルした場合など、成績の下端にデータの無い行が生じます。これを隠すのに従来は一度全ての行を表示してから不要な行を隠していましたが、メニューの「必要な行のみ表示」だけでこれができるようにしました。

2011/02/27 版の変更点

- ・準決勝以降のラウンドで棄権者が出た場合（全員のデータが入っていない場合）、最終成績で同じ選手名が 2 度表示されるバグの修正。2009/6/10 版で不十分だった部分の修正です。
- ・課題名の指定を可能にしました。
- ・IFSC の現行ルールに従い、競技順の決定に選手名簿のワールドランキング列の値を優先にしました。

2009/06/10 版の変更点

- ・ワールドカップ加須大会に際し、IFSC から発表されている書式の仕様に合わせてレイアウトを変更。

2009/01/03 版の変更点

- ・2008 年版 IFSC ルールへの準拠。

2006/12/26 版の変更点

- ・入力が必要なセルへのアクセスの可否のメニューが、保存時に消えてしまうバグをフィックス。

2006/12/25 版の変更点

- ・第2回ボルダリングジャパンカップでの実使用で発見されたバグをフィックスしました。
- ・入力が必要なセルへのアクセスの可否をメニューで変更できるようにしました。

2006/9/14 版の変更点

- ・競技順作成時に、ダイアログで進出者数を指定できるようにしました。
- ・メニューダイアログを廃止しました。

2006/7/23 版の変更点

・入力が必要なセルへのアクセスができないようにしました。これを解除する場合は“input_area_unrock” マクロを実行してください。

2006/7/8 版の変更点

・予選の競技順作成方法を、2006年のUIAAルール準拠に改めました。なお課題数は、2006年のルール改訂で以前より少なくなっていますが、従来通り8課題まで対応できるようになっています。

2006/1/19 版の変更点

- ・シートを変更した際の、カレントセルの自動補正マクロを仕様変更しました。

2006/1/9 版の変更点

・複数のブックを開いた場合、その内の一つをクローズするとメニューバーから処理用のメニューが消えてしまうことに対処。ついでにメニューバー上の項目名を「リザルトサービス」から「ボルダー処理」に変更。

2006/1/8 版の変更点

- ・マクロの呼び出しは、メニューバーに「ボルダー処理」を加えてここから呼び出すように変更しました。またそのメニューから、ユーザーフォーム（ダイアログ）を表示させてコントロールすることも可能です。
- ・同時に、ユーザーフォームが勝手に表示されることはなくなりました。